



米国大学にみる Institutional Researchの 実践と制度的基盤

山形大学 学術研究院(教育推進機構主担当)

藤原 宏司

2026.02.05(木) 15:00-17:00

名古屋大学高等教育研究センター第120回客員教授セミナー

今日の内容

1. ミネソタ州立大学機構(Minnesota State)の事例から
2. データ統合とガバナンス:業務標準化の実装
3. 米国のIRを支える制度的基盤
4. IRの組織形態:中央集約か分散か
5. 大学評価と教育効果の測定
6. まとめ

自己紹介:藤原 宏司 | Koji Fujiwara

専門は、**米国における高等教育とIR**(Institutional Research)および応用統計学(Ph.D.)。
米国の大学・短期大学等で、統計コンサルタント、IRおよび大学評価業務に従事。

2016年8月から現職。

「山形大学IR担当者向け実践プログラム」プログラムディレクター。

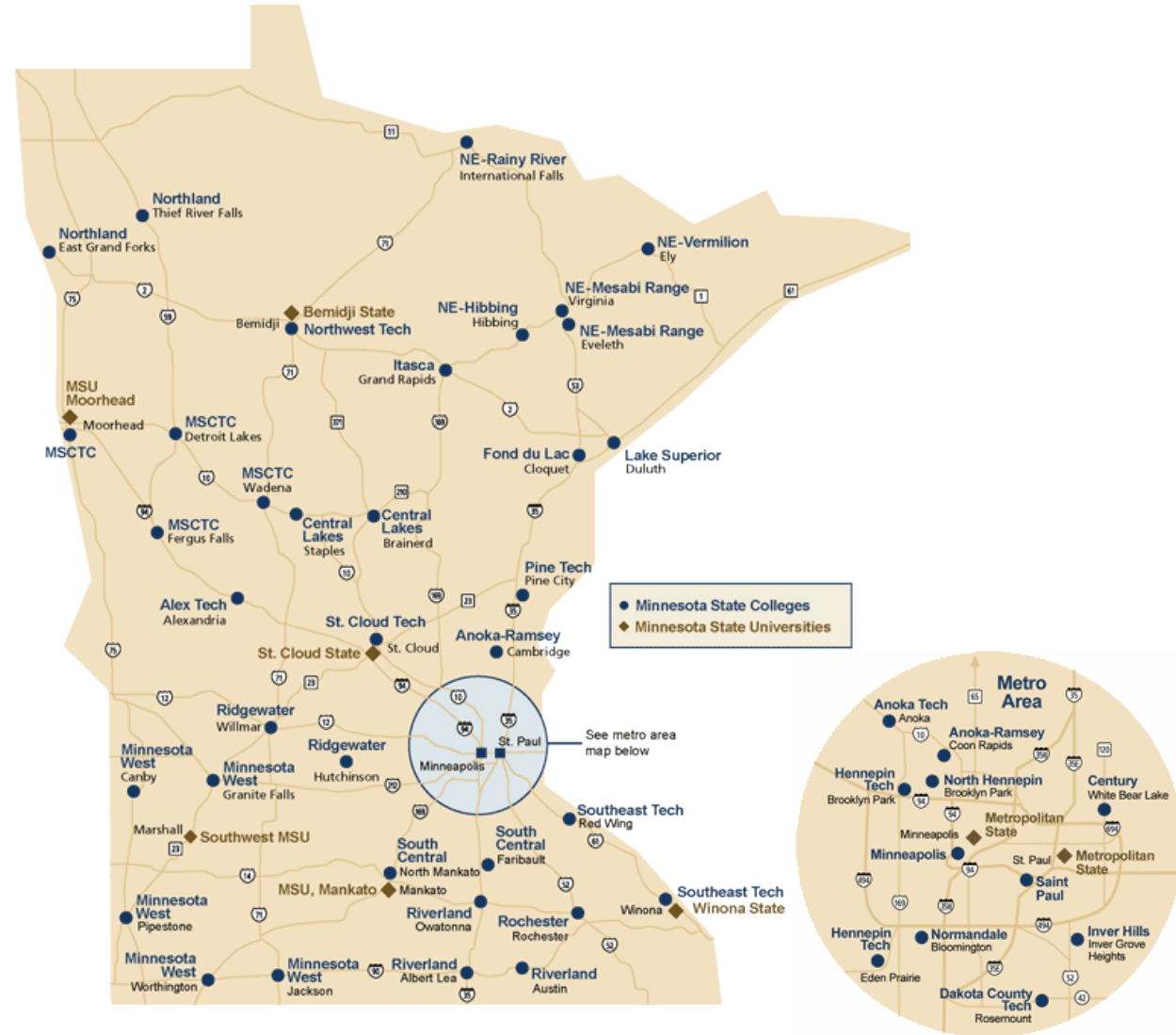
統合型データベースと大学経営

～ミネソタ州立大学機構におけるISRS開発の事例から～

Minnesota State (MnSCU)の構成

Minnesota State Colleges and Universities system

- 7つの大学と26の短期大学で構成
- **州内各地に分散配置**されている
54のキャンパス
 - 州による高等教育へのアクセス政策
35-mile rule
- 年間 約270,000人の学生が学ぶ
- 全米でも最大級の州立大学機構
 - 全米第3位 または 第4位(年間学生数)



タイムライン:MnSCUの発足とISRSの開発

- 1991年:3つの州立大学システムの統合を州議会で決定
- 1994年:統合型DB(ISRS)開発開始(当時の暫定総長が決断)
- 1995年:ミネソタ州立大学機構(MnSCU)発足
- 1997-1999年:
 - ISRS主要モジュールを段階導入
 - 各大学の業務システムをISRSに順次移行
- 2000年ごろ:ISRSの本格運用フェーズへ
- 2016年:略称を「MnSCU」から「Minnesota State」へ変更

ISRS : Integrated Student Record Systemの略

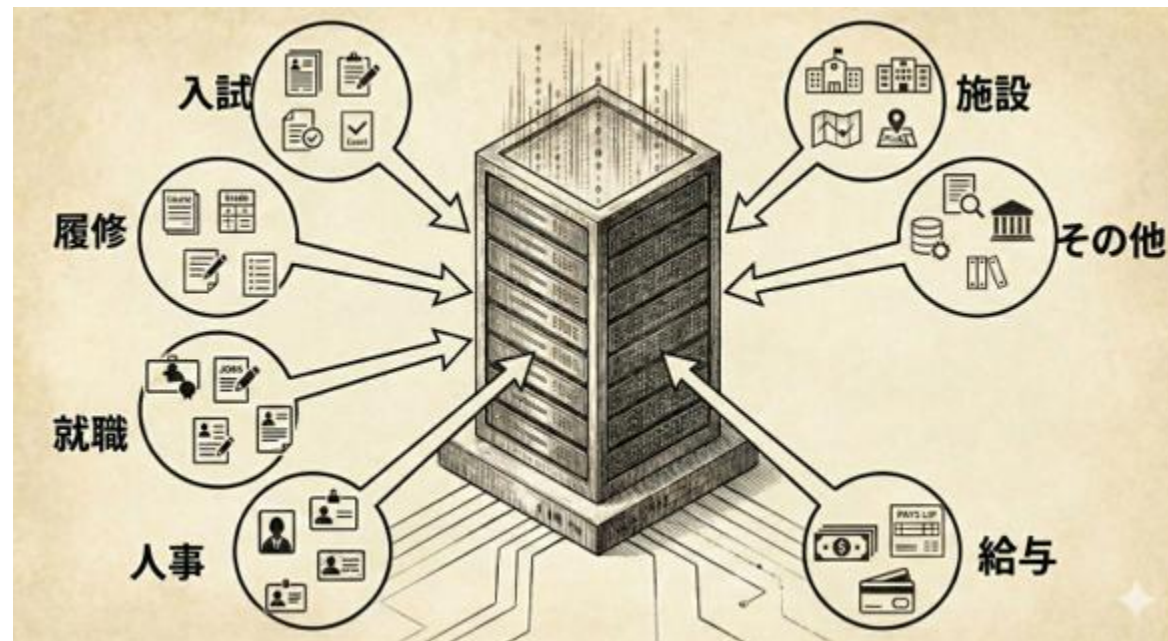
なぜ統合型データベースが必要だったのか(1990年代前半)

- 同じ機構に属していても、各大学が、教務・学生・会計・人事などの管理業務を、**独自システム／独自ルール**で運用
 - 大学によってはスプレッドシート中心で**属人的なデータ処理**
- **結果**:データ定義・手順・品質が揃わず、**機構として**
 - データの集約・比較が難しい ← 大学が出してくるデータが信用できない
 - 意思決定に時間がかかる ← 大学が出してくるデータが信用できない
 - 社会への説明責任(例:議会对応)に耐えにくい ← 大学が出してくるデータが信用できない**などの状況が発生**

ISRSの導入で何が変わったか

- **機構全体で、共通の基盤と定義**にもとづいたデータを扱えるようになった
- **議会对応や予算編成、計画策定**に必要な**データ集約**が、**迅速かつ安定的**になった
- IRは、**複数部署のデータを横断的に結合した分析**が**効率的**にできるようになった

ISRS：Integrated Student Record Systemの略



- 発表者の米国時代の上司が、ISRSの開発(IRコンポーネント)に携わっていました
- 発表者は米国時代、**年間300件**を超すデータリクエストに一人に対処
- 発表者と上司の2人だけで、大学と短期大学のIR業務を担当(発表者は評価も担当)

ガバナンスの重要性

- 機構トップが、ISRSの利用を**全機構で徹底**(選択制にしない)
- 「使う／使わない」の議論を封じ、**ISRSの標準化を成立させた**
- ISRSは、**全キャンパスを共通定義・共通手順**で動かし、**正確性と再現性を担保したうえで、**
データ集約・比較・意思決定を迅速化する基盤だった
- **ISRSはITインフラだけではなく「業務標準化を実装する装置」**

ローカル最適カスタマイズを認めない

- 各大学のローカルルールに合わせたカスタマイズは原則不可
- 例外が増えるほど標準が崩れ、正確性や再現性が担保できなくなる
- 「業務をシステムに合わせる」発想で、全体最適を優先した

ISRSとIR:統合型DBを使ったIR業務例

① 開講基準に関するコスト分析

必要なデータ

- 教員給与等のコスト
- 開講科目情報
- 履修者数／成績情報
- 教室情報(座席数、広さ、その他)

→ 科目開講コストを可視化して、
開講基準を策定

② 使用教室の最適化

必要なデータ

- 教室情報(座席数、広さ、その他)
- 時間割情報(担当教員も)
- 履修者数

→ 座席稼働率を計算

→ 教室資源を最適配分

複数のデータソースにまたがる分析が効率的に実施可能

ISRSからWorkdayへ:次世代基盤への移行

NextGen Project Budget

	May 2023	November 2024
HCM/FIN	\$100.4M	\$100.4M
Student	\$101.1M	\$116.2M
Overall Project Support	\$41.2M	\$58.8M
Contingency		\$15.0M
Totals	\$242.7M	\$290.4M

■ Bill Maki氏(ミネソタ州立大学機構財務担当副総長)よりご提供いただきました

米国のIRを機能させている制度的基盤

FERPA

データは大学のもの

- 学生・教職員・財務等のデータは、**大学(機構)の資産**
- 個人や部署の「持ち物」ではなく、**組織として管理し、組織として使う**
- **大学が負う責任**
 - 正確性・再現性(同じ定義で、同じ数字が出る)
 - 安全性(漏えい・不正利用を防ぐ)
 - 目的の明確化(何のために使うか)
 - 説明可能性(根拠を示して説明できる)

FERPA

- 学生の教育記録(education records)の取扱いを定める連邦法
- 原則:本人同意なく第三者へ開示しない
 - 親に対しても学生の同意がなければ、成績等の情報開示はできない
- 例外:
 - **正当な教育目的**(legitimate educational interest)があれば、**学生の同意がなくてもデータにアクセス**できる
 - **IR担当者は、職務上必要な範囲で、学生データにアクセス**できる
(ただし、教員等による研究目的のデータ使用はIRBを通す必要あり)
 - **ロール(役割)に基づくアクセス制御(必要最小限)が必要** → **Registrar**の責任

米国のIRを機能させている制度的基盤

人事制度

IR担当者は職員：米国大学職員の人事制度

- IR担当者に限らず、**米国における大学職員は全員が専門職採用**
 - 米国のIR担当者は、教員ではなく職員
- **全学一括採用という制度はない**
- **人材を必要としている部署が、必要なスキルを持っている人を採用**
 - せっかく採用した貴重な人材を他部署に異動させることはあり得ない
- **結果：標準化された業務を少人数で回しやすい**
 - 統合型DBと相性が良い

執行部:責任がある人が先頭に立つ

- 米国では、**執行部が説明責任を「直接」負う**
 - 大学経営が上手く行かない／改善が機能しなければ責任を問われるのは執行部 → **契約期間内でも解雇／更迭される**
- 結果として、**執行部が**
 - 先頭に立って方針を決める
 - 標準を徹底する／例外を抑える
 - 実行を主導する
- **長期在任が可能**(任期はあるが、**更新回数の上限はない**)
 - 改革・改善の「設計→実装→定着」まで回しやすい



IRデータ活用の動機

【おまけ】理事会と学長：誰がトップを任命・解任するのか

- ガバナンスの基本は 理事会 (Board of Trustees / Board of Regents)
- **理事会の役割**
 - **学長 (President/Chancellor) の任命・評価・契約更新／解任**
 - 学長のサポートと監督を行い、**学長の任命責任を負う**
 - 大学における日常の業務執行には介入しない (監督が中心)
- **学長の役割**
 - **副学長の任命・評価・契約更新／解任**
 - 日常の大学運営を執行し、**結果責任を負う**

米国のIRを機能させている制度的基盤

米国のIRは分散しているのか？

米国大学のIRは分散していない

- 「分析行為」や「分析ニーズ」の分散
 - Registrar / Enrollment / Student Affairs など
各部署が自部署データで分析することは普通にある(BIツール普及の影響も)
- Swing等による“decentralized”は「現状記述」ではなく「提案」
 - 「現状の調査報告(Status Report)」ではなく、
「念願の実践(Aspirational Practice)」
 - IR担当者だけが分析を担うのではなく、学内のあらゆる部署が
「自律的にデータを使える能力」を構築すべき、という**将来ビジョン**
 - 「IRが全面的に分散している」という意味ではない

発表者の知る「分散化」の例（例：Minnesota State型）

- **機構本部(System)にあるIR機能**
 - ISRSを活用し、機構全体の分析、機構執行部が行う意思決定や説明責任のサポート
- **Minnesota Stateに属する各大学・短期大学にあるIRオフィス**
 - ISRSを活用し、大学執行部等が行う意思決定や説明責任のサポート
- **【重要】大規模大学では、学部にIR機能を置くところもある**
 - これが、IR機能が分散しているという例
(個別大学の例外はありますが、大抵、本部にも統合的なIRオフィスはあります)

EDUCAUSE QuickPoll(2023)

- Institutional Research(IR)は
“**mostly centralized**”(主に中央集約)に分類されている
 - 一方、Business Intelligence(BI)と Analytics は
“**mostly decentralized**”(主に分散配置)と分類されている
- ∴ BIツールの普及(セルフサービス化)を、
IR組織そのもののあり方と**混同**している可能性が高い？

Quality In, Quality Out

- 部署でのデータ活用は推進すべきだが、
土台となる統合型DBがないと、
執行部等に対する正確なデータ提供が難しい
- **まず共通基盤を整備してから**
分散的な運用に進むのが現実的

州立大学機構の意義

地域に大学を残す仕組み

Minnesota Stateにおける35-mileの発想

- 州全体として「**高等教育へのアクセス**」を確保する枠組み
- 住民が通える距離にキャンパスを配置する、という発想
- 単一大学では存続が難しい地域でも、
機構として支えることで、**その地域に大学が残せる**
- Minnesota Stateに属する大学・短期大学の中には、
執行部や主要機能(主要部署)を共有し、
年間数億円規模の予算削減を実現している例も

■ 発表者が所属していた大学・短期大学では、執行部とIR部署を含む主要部署を共有

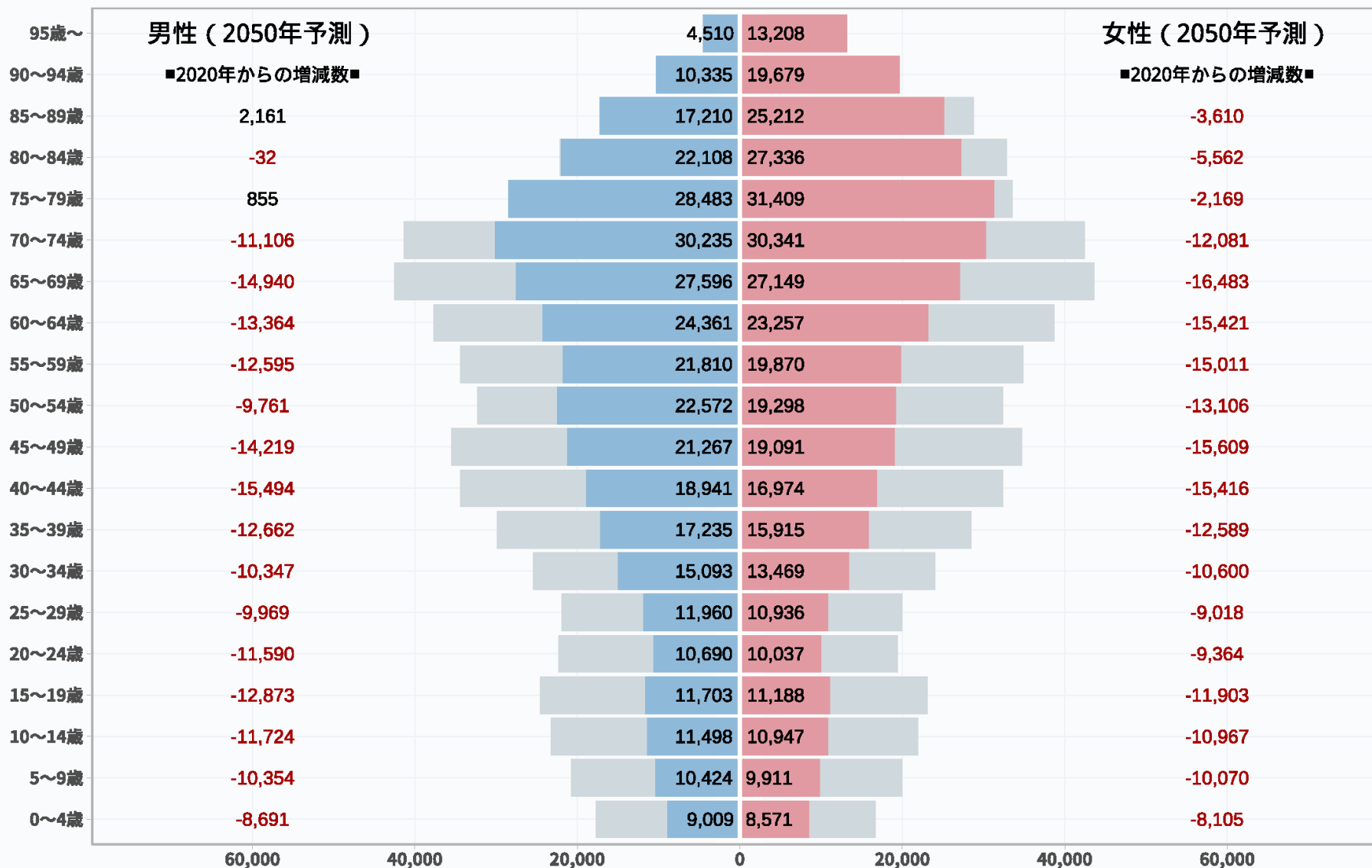
【地方のケース】大学は地域の基盤

山形のような地域の場合

- 地方に大学があることで若者が地域に滞在する
- 地域人材を育成できる地元企業・自治体と連携が生まれる
- 大学は「教育機関」であるだけでなく、「**地域のインフラ**」でもある

2050年時点の予測：山形県の人口ピラミッド（5歳階級）

灰色=2020年人口からの減少分、中央ラベル=2050年予測人口



他の都道府県における
人口ピラミッドは
こちらから



大学の存続を機構として実現・サポート

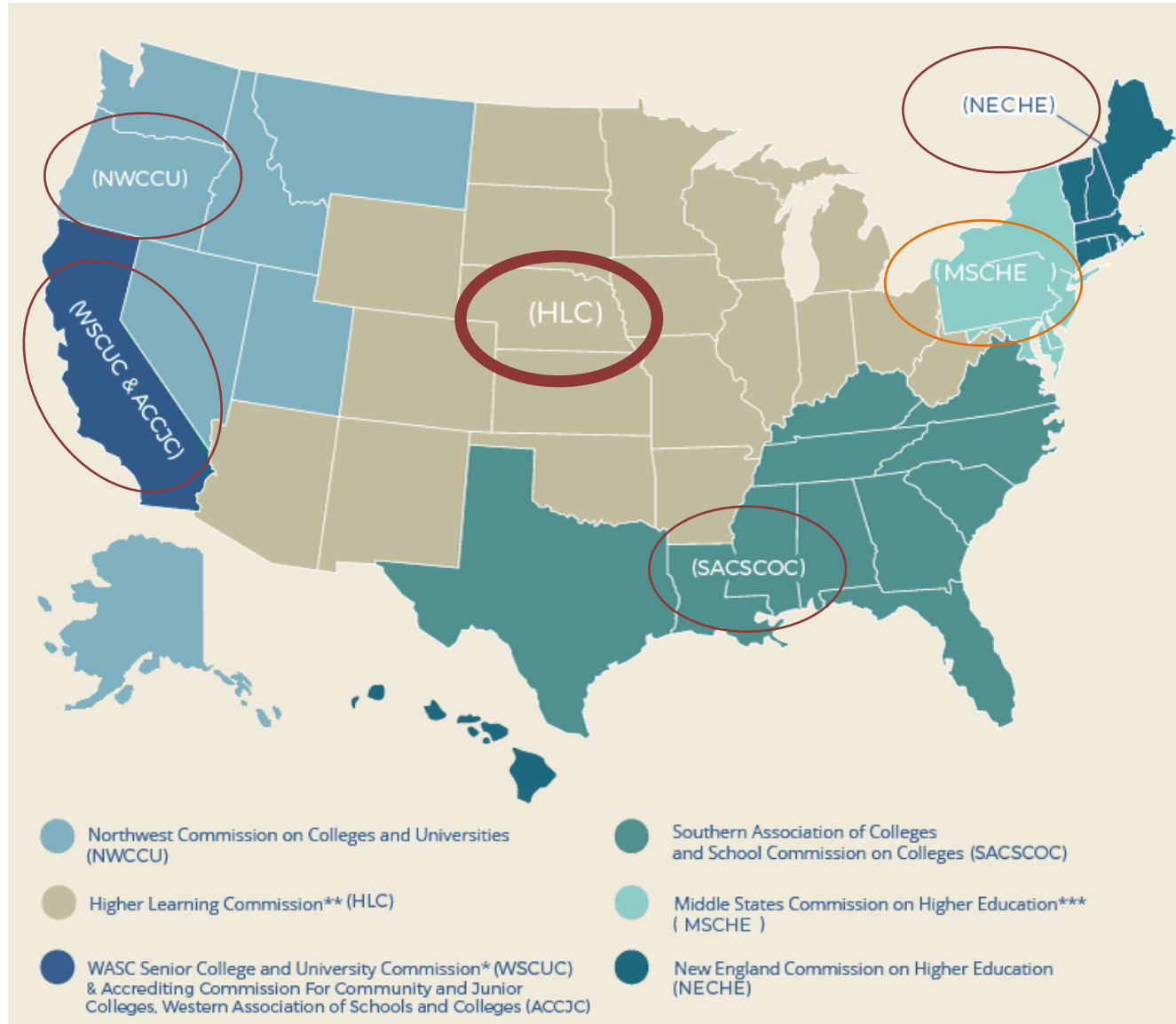
- 機構化により
 - 共通基盤(データ・業務)
 - 資源配分(人員・科目・施設)
 - 同じ機構内に属する他大学のヘルプも可能に
 - 小規模大学の支援を「**全体最適で設計・実現**」できる
- **結果: 個別大学の体力だけに依存しない運営が可能になる**

「定員割れの大学は整理すべき」という議論に対して

- 大学をなくせば
 - 若者が流出する
 - 地域の雇用・消費が縮む
 - 地域の活力が落ちる
- 重要なのは「整理か存続か」ではなく、**地域を支える仕組み**(機構化／共同化)をどう設計するか
- 大学を存続させることは、地域を守ること → **機構化の重要性**
 - Minnesota StateやSUNY等に見られる発想

米国における大学評価

米国における地域機関別認証評価機関



- 全米6つの地域に7つの評価機関がある
- 全ての評価機関が**米国教育省 (USDE) からの認定**を受けている
- これら評価機関は、**教育機関全体 (大学、短大等)**を審査・認定する

地図の出典:

Regional Accrediting Organizations | Council for Higher Education Accreditation

米国における地域機関別認証評価機関:ポイント

- 7つの評価機関は、**USDE認定の共通要件**を満たすため、**大学評価における最低基準**(共通の最低要件)は揃っている
 - ただし、基準の表現・運用・強調点には違いがあり得る
 - (機関別認証の枠組みとして) 大学・短大いずれもが対象
- **USDE-recognized(認証評価機関の要件):USDEが求める条件**
 - USDEは、認証評価機関が**教育の質に関して信頼できる権威**であることを求める
 - 認証評価は、**公的資金(連邦学生援助)投入に値する教育機関かを、認証評価機関が「保証」する仕組み**

米国における認証評価の目的

“

The **goal of accreditation** is to ensure that institutions of higher education meet **acceptable levels of quality**.

- U.S. Department of Education (USDE)

- 認証評価の目的は、高等教育機関が、教育・研究・大学運営等における**一定水準の質を満たしていることを保証すること**
- **大学間の優劣比較(ランキング)ではなく、定められた基準に対する適合性の確認**

米国における大学評価

直接指標と間接指標

【米国】直接指標と間接指標：従来の定義

- 直接指標：学生の学びを**直接的に示すもの**
(**Show** what students have learned.)
 - 間接指標：学生の学びを**間接的に語るもの**
(**Tell** what students have learned.)
- 教育効果測定(効果検証)

直接指標 (Direct Indicators of Learning)	間接指標 (Indirect Indicators of Learning)
<ul style="list-style-type: none">・ 卒業論文 (プロジェクト) 分析・ 外部試験・ 事前事後試験データ分析・ 外部評価・ 資格試験合格率・ ポートフォリオ分析・ ルーブリック分析・ 共通問題を用いたアセスメント	<ul style="list-style-type: none">・ 学生調査 (実態調査、満足度調査等)・ 卒業生 / 同窓生調査・ インタビュー (個人 / グループ)・ 卒業率・ 就職率・ 成績 / GPA・ シラバス分析・ カリキュラム分析 (マッピング)

NILOAで学んだこと

- **National Institute for Learning Outcomes Assessment (NILOA)**
- **教育効果測定における「直接指標」とは？**
 - 学生の学びを**客観的に測定**できる
 - 教育における**改善点が分かりやすい**
- **間接指標とは？**
 - **直接指標ではない指標**のこと
- **間接指標「だけ」のアセスメントは、認証評価上不十分**
 - (=直接指標を組み合わせたことが求められる)

【教育効果測定】間接指標の例

間接指標

(Indirect Indicators of Learning)

- ・ 学生調査（実態調査、満足度調査等）
- ・ 卒業生／同窓生調査
- ・ インタビュー（個人／グループ）
- ・ 卒業率
- ・ 就職率
- ・ **成績／GPA**
- ・ シラバス分析
- ・ カリキュラム分析（マッピング）

- ・ 調査・インタビュー
 - ・ 学生の主観によるもの
- ・ 卒業率・就職率
 - ・ 学生の学びを測定していない
 - ・ **改善点が分かりにくい**
- ・ **成績／GPA**
- ・ シラバス・カリキュラム分析
 - ・ 「学生が学ぶこと」と「学生が学んだこと」は異なる可能性がある
- ・ 企業アンケート
 - ・ **特別の場合**を除き、間接指標

GPA

【その前に】科目の成績は直接指標？

- 学習成果に関する要因科目の成績に影響をおよぼすファクター

1. 科目が設定する到達目標(SLO)への達成度

- 学習成果「以外」が混入しやすい要因

2. 課題提出状況

3. 授業態度

4. 出席状況

5. etc.

「学生の学び」と直接関係がある??



もし、学習成果以外の要因(提出・出席・態度等)が科目成績に大きく影響している場合、「科目成績」は学習成果の「間接指標」

科目の成績：成績評価手法の混在

- Case 1: **相対評価**

- 学生が属する集団内における**相対的な位置**をベースに評価(例:受講科目内の**クラス順位**)
- 成績分布に関する決まりごとがあるケース
 - (例:S or Aは全体の〇〇%を超えない)



「科目の成績」は学習成果の**間接指標**

- Case 2: **絶対評価**

- 予め定められた評価基準(SLO)に従って評価
- 到達目標に対する評価「**のみ**」で成績が決められている場合
→ **直接指標**(ルーブリック評価と同じ)
- 到達目標に対する評価**以外**も含まれている場合
→ **間接指標**

【教育効果関連指標】GPAは間接指標

- GPAのベースである「**科目の成績**」が**間接指標**ならば、**GPAも間接指標**
- GPAのベースである「**科目の成績**」が「**全て**」**直接指標**であっても、**GPAは間接指標**
- 理由
GPAは、各科目における複数の到達目標への達成度を「**単一の数値に平均化した指標**」であるため、どの学習成果が、どの程度達成されたのかが分からず、**結果の解釈や改善点の特定が難しい**

GPAだけで教育効果を測定できる？

- **例1: GPAが2.0から3.0に上がった**

- 教育効果が上がったの？
 - 何が原因で上がったの？
- } GPAだけからは分からない

- **例2: GPAが3.0から2.0に下がった**

- 教育効果が下がったの？
 - 何が原因で下がったの？
- } GPAだけからは分からない

- **例3: A君とB君のある学期におけるGPAは同じだった**

A君		B君	
科目名	成績	科目名	成績
科目A	S	科目A	B
科目B	S	科目B	B
科目C	F	科目C	B
科目D	F	科目D	B
GPA	2.0	GPA	2.0

- A君とB君の教育効果は同じでしょうか？
- GPAが同じでも、学んだ内容・達成度が違うことがある
→ 教育効果が同じとは言えない

【米国】GPAとは何か？

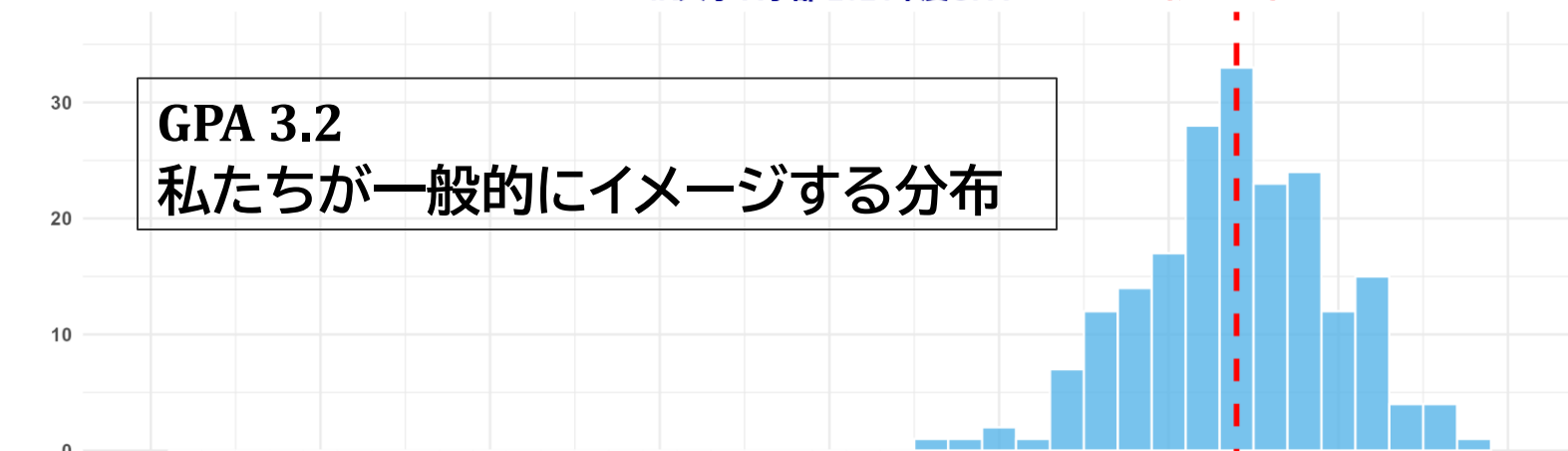
- 受講科目の成績(Grade)をもとに算出される、学生の学業成績を**総合的に把握**するための指標
 - 通常は4.0スケールで表される
 - 学生の学業状況を**モニタリング**するために使われる**(非常に有益)**
 - 大学教育の質そのものを直接測る指標ではなく、**学習成果に関連する「間接指標」**
 - 評価基準・科目構成・**分布の影響**を強く受ける

GPAは分布の影響を強く受ける

IR大学 A学部 2024年度GPA

GPA 3.2

GPA 3.2
私たちが一般的にイメージする分布



IR大学 A学部 2025年度GPA

GPA 3.2
同じ教育効果と言える？



GPAが直接指標ではない理由

- ✓ 「平均」は**実態を隠す**場合がある
- ✓ この例では「**要支援層**」が**数字に埋没**する危険性がある
- ✓ 「**分布の違い**」を「**直接**」説明できない
- ✓ 学生が身につけた「**能力**」の**直接証明**ではない

Likert尺度の読み方と注意点

Likert尺度とデータ分析例(DSBC)

Likert尺度の例

AGREEMENT (5) 同意／非同意

- Strongly Agree
- Agree
- Undecided
- Disagree
- Strongly Disagree

AGREEMENT (4) 同意／非同意

- Strongly Agree
- Agree
- Disagree
- Strongly Disagree

FREQUENCY (5) 頻度

- Always
- Very Often
- Sometimes
- Rarely
- Never

FREQUENCY (4) 頻度

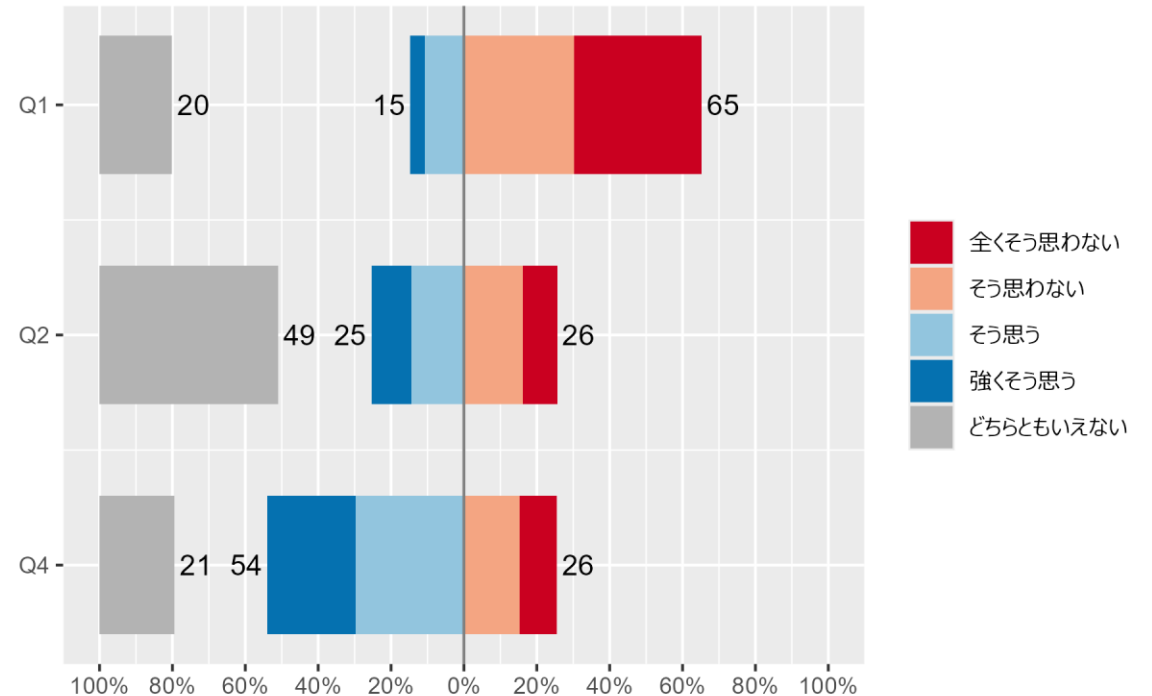
- Very Frequently
- Frequently
- Rarely
- Never

IMPORTANCE (3) 重要度

- Very Important
- Moderately Important
- Not Important

Divergent Stacked Bar Chart (DSBC)

可視化例(架空の設問)



米国の大学で実施されているアンケート調査例(NSSE)

- 米国の大学では、NSSE等のアンケート調査を定期的に行い、回答傾向の変化を**経年**で追っている
 - それらアンケートの質問形式では、**Likert Scale**が使われることが多い

例 : If you could start over again, would you go to the same institution you are now attending?

Values	Response Options
4	Definitely yes
3	Probably yes
2	Probably no
1	Definitely no

例 : How would you evaluate your entire educational experience at this institution?

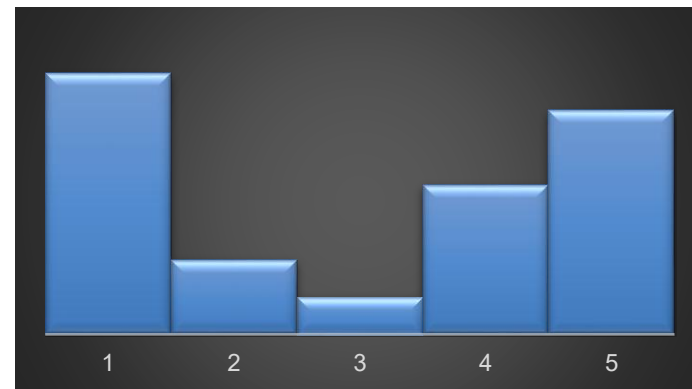
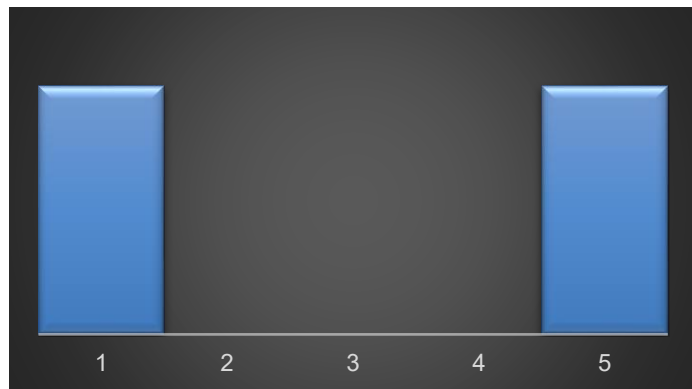
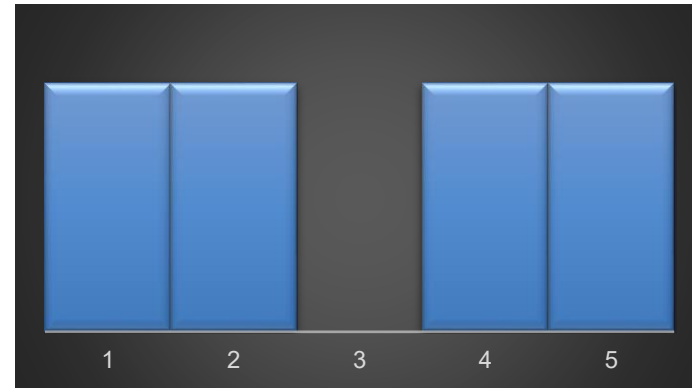
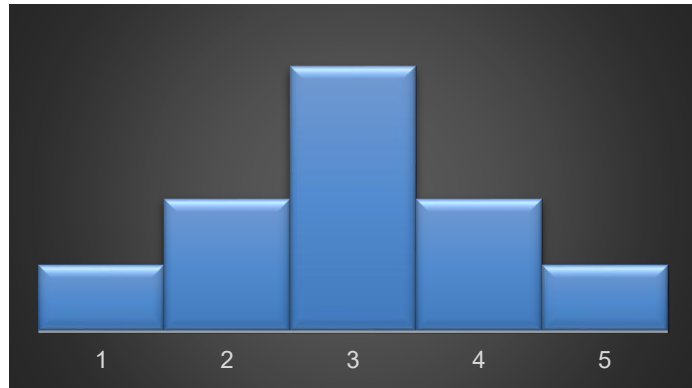
Values	Response Options
4	Excellent
3	Good
2	Fair
1	Poor

出典: NSSE

【再掲】 平均値「だけ」を報告する危険性

- 平均値「だけ」から分布を推定することは難しい
- 平均値は同じでも、分布は大きく異なる場合がある

$\bar{X} = 3$ の場合



Likert Scaleに関する議論

- **そもそも平均値を計算しても良いの？**
 - Likert Scaleは「順序尺度 (Ordinal Scale) データ」

例: 国語テストの順位とスコア

	順位	スコア
浅野	1	95
鈴木	2	94
藤原	3	50



順序尺度データ:
テスト順位の「**大小**」を示している

間隔尺度データ:
スコア間の「**等しい間隔**」は等しい意味を持つ

Likert Scaleに関する議論(contd.)

- Likert尺度型回答の平均を計算するという事は、

満足度(5)	
満足	5
概ね満足	4
どちらともいえない	3
やや不満足	2
不満足	1

高評価
↑
↓
低評価

等間隔

- 米国時代に、教職員からこのような質問を20回以上されました

選択肢の各レベルが「等間隔に位置している」という判断基準で、全てのアンケート参加者が回答していると仮定

これって妥当なの？

Likert尺度データの報告

- 平均値「だけ」の報告は避ける
- 比較・改善目的なら、分布 + 中央値を併記する

【重要】

平均は補助情報 → 主役は分布
(設問数は厳選する！)

まとめ

米国におけるIRが機能しているポイントと日本への示唆

- **共通基盤**: 統合型DB + 共通定義(例外を増やさない)
- **ガバナンス**: トップが標準を徹底し、責任の所在が明確
- **データの扱い**: データは組織資産
(正確性・再現性・安全性・目的・説明可能性)
- **共通言語**: CIPのような分類コードが、正確な集計・比較・報告を可能に
- **測定と報告**: GPAやLikertは便利だが、「平均値だけの報告」は危険
- **日本への示唆**: 日本の文脈に合わせた「正しい応用方法」の設計

【おまけ】米国のIRを機能させている制度的基盤

Classification of Instructional Programs (CIP)

教育プログラムの分類コード

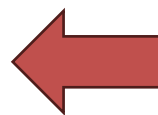
現在の日本における**全大学**を対象に、

1. **日本文学を専攻している全学生数**を
瞬時に求めることはできますか？

- **注意：日本文学を専攻 ≠ 日本文学科に所属**

2. **今までに日本文学専攻で卒業した全学生数**を
瞬時に求めることはできますか？

3. **日本文学を専攻している全教員数**を
瞬時に求めることはできますか？



みなさんの大学では簡単に
集計可能ですか？

「日本文学」を検索キーワードとして調べると

日本文学を学べる大学の学科名

- 日本文学科
- 文学科
- 文芸学科
- ドキュメンテーション学科
- 人間コミュニケーション学科など

問題点

- **検索漏れ**の可能性
- 日本文学を学べる**全ての大学**が特定できなければ、日本文学を専攻している学生数の把握は困難
- **教員数の把握はもっと困難**



全数調査しかない？

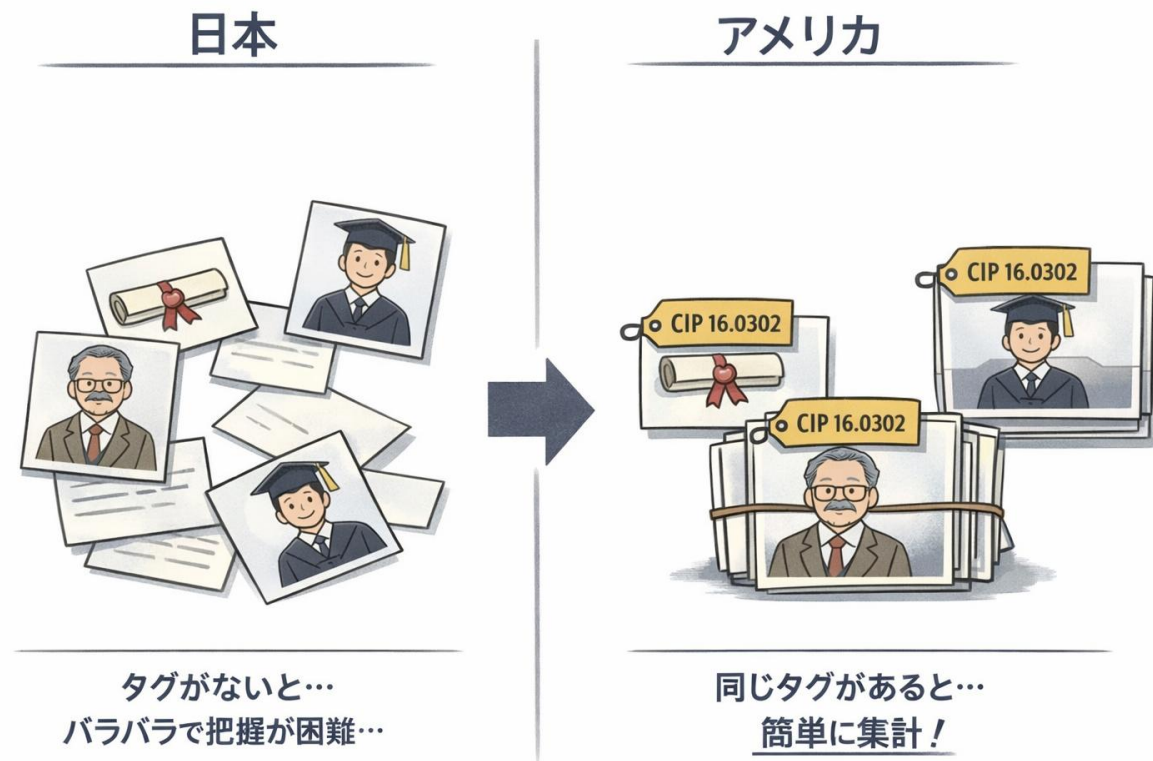
米国では、瞬時に集計・回答ができます！

- それを可能としているのが、**CIP**と呼ばれる**教育プログラムの分類コード**（タグのようなもの）
 - Classification of Instructional Programs
 - 学生データ&教員データに紐づいている

CIPの例

分野名	CIP	教育分野名称
大分野	13	教育学
中分野	13.06	教育アセスメント等
小分野	13.0608	Institutional Research

日本文学のCIP Codeは「16.0302」



CIPとは

- CIPは、米国の大学における**教育の現状**および**学業修了状況**に関する「**正確な報告体制の構築を目的**」として、教育プログラムを47の大分野にまとめ、その下に431の中分野と1,861の小分野を定めている
- **1980年**に初版が発表されて以来改訂を重ね、最新版は2019年7月に策定された「**2020 CIP**」である

米国の大学におけるCIPの運用

- 米国の大学では、「学部名」、「学科名」、「教育プログラム名」等を**自由に決める**ことができる(政府機関等の許可は必要無い)
- **学部・学科の構成も、大学の裁量で変更できる**
 - 別途の承認・要件が求められる場合がある(州の要件、専門職領域など)
- 一方、連邦政府、州政府、認証評価機関などに対する「教育プログラムに関する報告」では、**学科名ではなく、6桁(小分野)のCIPコード単位**で行う
 - **公的報告ではCIPが共通言語**となっている

米国の大学におけるCIPの運用 contd.

- 米国の大学は、提供している教育プログラムにおける「**教育内容**」と、CIPが定義している「**教育内容の基準**」を比べ、**最適だと思われるCIPコードを「自主的に選択」**する

CIPの活用例: Environmental Studies (環境学; CIP = 03.0103)

CIP THE CLASSIFICATION OF INSTRUCTIONAL PROGRAMS

CIP 2020 Change Year

Quick CIP Go

Search Options FAQs Resources Help Contact CIP Wizard

Detail for CIP Code 03.0103 [Print](#)

Title: Environmental Studies. ← CIPコードの名称

Definition: A program that focuses on environment-related issues using scientific, social scientific, or humanistic approaches or a combination. Includes instruction in the basic principles of ecology and environmental science and related subjects such as policy, politics, law, economics, social aspects, planning, pollution control, natural resources, and the interactions of human beings and nature. ← 教育内容の基準

See also: [14.1401\) Environmental/Environmental Health Engineering](#), [30.4401\) Geography and Environmental Studies](#).

CIP	教育プログラム名	学位レベル	大学名
03.0103	Environmental Studies	Bachelor	ベミジ州立大学
03.0103	Sustainability	Bachelor	ミネソタ州立大学モアヘッド校

■ 「CIPコードが同じ」 → 「似たような教育内容」であると推測できる

■ 「教育プログラム」と「学位レベル」の組み合わせを「学位プログラム」と呼ぶ

■ 「学部名」、「学科名」、「教育プログラム名」では報告しない

(理由: 大学ごとに名称が違うから)

→ 「テキスト」ではなく、「コード」によるデータ収集

→ より正確なデータ収集が可能に

日本の場合:「学科名」が報告時の基本

- 某進学情報サイトで「環境学」を学べる大学を検索

学校の種類	エリア・都道府県	学びたい分野
大学	<input type="button" value="変更"/> 全国	<input type="button" value="変更"/> 環境学 <input type="button" value="変更"/>

- 環境工学科、環境学科、生物学科、生物科学科、グリーン環境創成科学科、保健衛生学科、地球科学科、環境安全工学科、土木工学科、人間環境デザイン学科、生命圏環境科学科、ライフデザイン学科、アニマルサイエンス学科、応用生命科学科、サステナビリティ学科、社会基盤学科、建築学科、健康栄養学科 など

様々な学科で「環境学」が学べるという検索結果を得ました

The IPEDS Completions Survey Component

CIPコード
(小分野)

Completions CIP Data

CIPコードの名称

学位レベル

■ 某大学が提出した全55ページの資料より抜粋

大分野
01:農学

中分野
01.01
農業経済学 &
農業経営学

小分野
01.0103
農業経済学

CIPCODE	Award Level	Major	Gender	Non Resident Alien	Hispanic / Latino	American Indian or Alaska Native	Asian	Black or African American	Native Hawaiian or Other Pacific Islander	White	Two or more Races	Race/ ethnicity unknown	Total	distance education program
01.0103 Agricultural Economics	5 - Bachelor's degree	1	Men	10	11	0	3	3	0	76	6	2	111	No
			Women	1	7	0	3	1	1	22	1	0	36	
			Total	11	18	0	6	4	1	98	7	2	147	
01.0103 Agricultural Economics	7 - Master's degree	1	Men	0	1	0	0	1	0	6	0	0	8	No
			Women	4	0	0	1	0	0	0	0	0	5	
			Total	4	1	0	1	1	0	6	0	0	13	
01.0103 Agricultural Economics	17 - Doctor's degree - research / scholarship	1	Men	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	No
			Women	2	0	0	0	0	0	1	0	0	3	
			Total	4	0	0	0	0	0	1	0	0	5	
01.0401 Agricultural and Food Products Processing	5 - Bachelor's degree	1	Men	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	No
			Women	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			Total	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
01.0603 Ornamental Horticulture	5 - Bachelor's degree	1	Men	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	No
			Women	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			Total	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
01.0901 Animal Sciences, General	5 - Bachelor's degree	1	Men	0	8	0	0	1	0	7	0	0	16	No
			Women	0	40	0	3	6	0	80	4	1	134	
			Total	0	48	0	3	7	0	87	4	1	150	
01.0901 Animal Sciences, General	7 - Master's degree	1	Men	3	2	0	0	0	0	2	0	0	7	No
			Women	2	2	0	0	0	0	9	0	1	14	
			Total	5	4	0	0	0	0	11	0	1	21	
01.0901 Animal Sciences, General	17 - Doctor's degree - research / scholarship	1	Men	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	No
			Women	6	0	0	0	0	0	3	0	0	9	
			Total	8	0	0	0	0	0	3	0	0	11	

■ 大学固有の「教育プログラム名」や、「学部単位」、「学科単位」で卒業生数を報告していない点に注意

【おまけ】学科と学位プログラム

学科名: Mathematics & Computer Science

教育プログラム名	学位レベル	CIP2010
Mathematics	BS	27.0101
Mathematics	MS	27.0101
Mathematics Education	BS	13.1311
Mathematics Elementary Education	BS	13.1202
Computer Science	BS	11.0701
Computer Information Systems	BS	11.0401

- この学科では、
6つの学位プログラムを
提供している

→ CIPコードの種類 = 5
(重複アリ)

- 学位名称の一般的なフォーマット

学位レベル名 in その大学における教育プログラム名

- 学位名称は各大学が自由に決めることができる



- この学科における学位プログラム

- BS in Mathematics
- MS in Mathematics
- BS in Mathematics Education
- BS in Mathematics Elementary Education
- BS in Computer Science
- BS in Computer Information Systems

【おまけ】学位プログラムとLearning Outcomes

学科名: Mathematics & Computer Science

教育プログラム名	学位レベル	CIP2010	Learning Outcomes
Mathematics	BS	27.0101	独自の物を策定
Mathematics	MS	27.0101	独自の物を策定
Mathematics Education	BS	13.1311	独自の物を策定
Mathematics Elementary Education	BS	13.1202	独自の物を策定
Computer Science	BS	11.0701	独自の物を策定
Computer Information Systems	BS	11.0401	独自の物を策定

各学位プログラムに応じた
Learning Outcomesを策定し
アセスメントを実施する

■ Learning Outcomesとは

・ プログラム修了時に**学生が何を知っているか、何ができるか**を示すもの

→ 学習成果の達成状況を示す**エビデンス**として評価され、**結果は教育改善に用いられる**

注: 卒業判定には使われない

Thank You!

Any Questions, Comments or Suggestions?

藤原 宏司 | Koji Fujiwara, Ph.D.
kfujiwara@cc.yamagata-u.ac.jp